

令和6（2024）年度

コーディネーションパワーアップ講座① 実施報告

実施日：令和6（2024）年12月6日（金）

本研修は、地域課題を地域の人々自らが主体的に解決できるよう、地域活動を志す方々が、住民のつながりづくりに必要な知識や、地域課題や地域資源を把握する方法、地域課題解決に向けて地域資源をコーディネートするために必要な知識・技術の習得をねらいとして、受講者個々が取り組んでいるコーディネーションの充実を目指します。少人数の研修で、全3回の内容で実施されます。

1 回目の今回は、受講者3名で講座全体の礎となる講話を聞き、その後日頃の取組についての情報交換等に取り組むことで、コーディネーションのポイントを整理していただきました。温かく和やかな雰囲気の中で講座を進めることができました。

○講話「地域課題と地域づくり」

日本女子大学人間社会学部 准教授 荻野 亮吾 氏

荻野氏は、社会教育学、生涯学習論、成人教育学を専門とし、コミュニティの課題把握や活動計画の立案を行う際の「対話」の場に関するアクション・リサーチ等に取り組まれていらっしゃいます。

前半は、地域のつながりづくりの方法を中心にお話しいただきました。ソーシャルキャピタルの概念について話され、その構成要素が社会的ネットワーク・互酬性の規範・相互の信頼にあると示されました。その上で、ソーシャルキャピタルづくりの基本的な考え方として、「顔の見える関係を築き、関係を広げ、徐々に大きな関係をつくりだすこと」「人と人が自然に出会える場や空間をつくりだすこと」「つながりを新しくつくるよりも、今のつながりを活かす方が早くて簡単であること」「誰にも『みえる』活動を通じて、地域に『みえない』資産を生み出すこと」などを伝えられました。その後、話された内容について、事例を紹介しながら受講者が分かりやすいように補足してくださいました。



後半は、地域の課題解決の方法に関する内容を中心にお話しいただきました。地域コミュニティのエンパワメント（元気にすること）が必要な理由について話され、そのプロセスについて説明されました。それぞれの段階について、事例を基に丁寧な説明があり、受講者にとって、プロセスの各段階におけるコーディネーターとして必要な関わりについて考える契機となりました。

最後に、地域でのコーディネートをどう進めるかについて、荻野氏の知見を基に的確な助言があり、受講者はこれからの活動に活力を得ていたようでした。

○情報交換「地域課題の解決に向けた思いを語り合おう」

総合教育センター職員

最初に、改めて本研修のねらいを確認することで、「地域課題を地域の人々自らが主体的に解決できるようにしていく」というビジョンを共有しました。

その後、地域課題解決のサイクルを意識して、「活動の準備期」「活動の最中」「活動の終末期（振り返り期）」に分けて、日頃の取組や配慮しているポイントなどについて自由に書き出してみました。そして、その中で出てきたテーマについて、受講者とセンター職員で掘り下げていきました。特に、目的の共有の方法、コミュニケーションの取り方、話合いの場づくり（参加者の選び方やファシリテーターの有無など）については、受講者それぞれの経験を持ち寄り、熱心な情報交換となりました。

最後に、残り2回の研修につながるよう、チームビルディングに関すること、地域づくりや地域課題に関することについての知識整理を行い、時間となりました。この時間だけでは完全に消化することは難しいほど盛りだくさんの内容となりましたが、受講者は自身が関わる活動について、改善に向けた方針等について考える機会になったようです。



【受講者の感想から】

- 漠然とした思いや行動を、しっかりした理論で裏打ちしていただいたと思います。
- 課題を整理することができ、活動の見直しのきっかけになりました。
- 修正すべきかと思っていたことを講師にも指摘され、立ち止まってみるよい機会になりました。
- 自らの立場を再認識し、「エンパワメント」することを始めたいと思います。
- コンパクトな研修は初めてでしたが、講師との距離が近く気軽にやりとりできよかったと思います。



研修内容に関するお問い合わせは、栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp